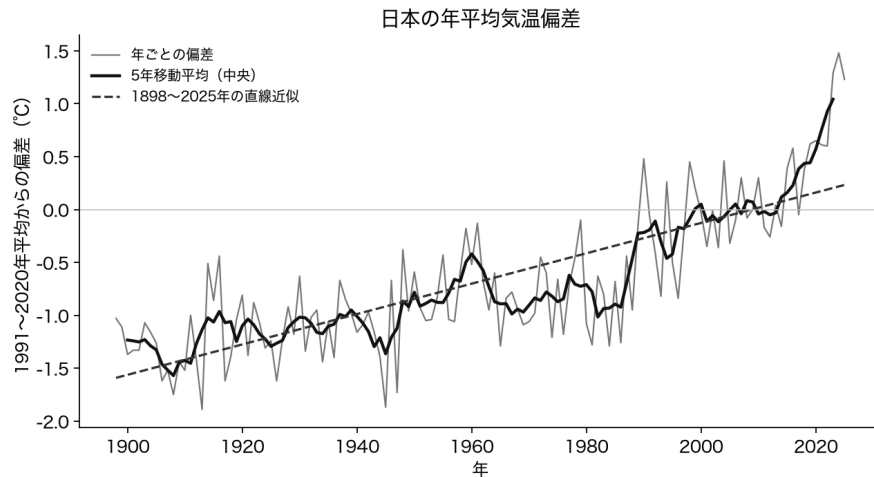


日本の気温上昇は比較期間で変わる

1898〜2025年の年平均気温偏差から求めた傾きは100年あたり約1.44℃。近年に限ると傾きは大きくなるが、その値を将来予測には使わない。



日本の年平均気温偏差

主な結果

全期間の傾きは1.44℃ / 100年。1951年以降は2.27℃ / 100年、1991年以降は3.82℃ / 100年だった。全期間の95%信頼区間は1.08〜1.79℃ / 100年。年の連続性を考慮して計算した。

前提と限界

気象庁が選んだ15地点の偏差の平均で、1991〜2020年平均を基準とする。店舗や工場の所在地の気温を表すものではない。期間による傾きの差は加速の検定結果ではなく、原因の特定や将来予測も行っていない。

企業の記録で調べる場合

事業所に近い観測地点の気温と営業日別の売上・電力使用量をそろえる。長期と直近を分けて計算し、比較期間による差を確かめる。

出典：気象庁「日本の年平均気温」。公表CSVを加工して作成。確認日2026年9月7日。